

### 第13回ZOOM寺子屋感想

本日はありがとうございました。  
大変貴重な学習の機会をいただきました。  
実際に児童への教育をされている細野先生の活動を聞くことができ、イメージが膨らみました。  
人格の完成を目標とする義務教育において、教える側がどのような意図や目的で指導をするかは非常に重要なことだと思います。  
また、嶋田先生が言われたとおり、子どもにとって先生との出会いというのは人生を左右するほど大きなものだと思います。  
子どもの発達特性を捉え、子ども同士のつながりを考え、遊びや学びによって教育するということは大切なことです。  
なぜ折り紙なのか、なぜビンゴ、すごろく、カルタ、駒なのか、そこには提供する側の意図や目的があり、子どもにとって気づきや発想を膨らませるヒント、社会性を育てる要素があります。  
そのような学習材を提供できることは素晴らしいことだと思います。  
今、私自身、現在小学校教諭の免許取得のため勉強しているのですが、細野先生のお話を聞き子どもへの教育という特性を考えると、やはり教員の専門的な学習と実践経験が必要だと改めて感じました。  
南吉田小学校のように外国にルーツを持つ児童が増え、日本語教育の必要性は全国的に高まると思います。  
それは子どもにとってだけでなく、日本社会にとって大切なことです。  
ボランティアの力を借りることも必要であり、日本語教育を専門的にやっている人材を活用することも必要なことだと思います。  
日本語を学ぶ場が子どもにとって安心できる場所であると同時に、しっかりと日本語力を向上させ、最終的には自立できるように導くことができる教師が必要だと思います。  
私はまだ「知る」段階なので、将来的に自分自身がそこに携われるようになりたいと思います。

大変勉強になりました。  
ありがとうございました。

講師の細野さんの遊びの要素もとりにれた教材の扱いはとても参考になりました。また大切にしていること「ほめること」「公共性」「物を大切にすること」、杉山も心掛けていることとも共通していました。一人一人をしっかり見て、ほめることや適切な指示、自分の日頃の授業の取り組みを振り返ることができ、勉強になりました。また授業デザインのすばらしさは学ぶところが多々あり、またお話を伺いたいです。ありがとうございました。よろしく願いいたします。

細野先生の多くの実践例、アイデアと 생각이詰まった遊びをたくさん共有いただき、ありがとうございました。ブレイクアウトルームでも、実践例を共有いただき、とても勉強になりました。私は、子どもの支援にかかわり始めて1年弱です。今年度から取り出しでも支援する機会をいただき、それぞれの児童に合った活動を考えこなししていくことに精一杯になってしまっていました。今日参加して、子ども達は遊びを通して学ぶことを思い出すことができました。また、人として育てる、公共性を育てることの大切さに気付くことができました。今日学んだことを日ごろの支援で実践していきたいです。また、杉並の子ども日本語学習支援ボランティア養成講座で更に学びを深め、子ども達が人として成長していけるような支援をしていきたいと思いました。ありがとうございました。

実際の現場の事例をうかがえる貴重な機会をありがとうございました。子どもの日本語教育はもちろん、実践を行う際のヒントがたくさんありました。私は特に、誰もが輝けるような機会を作れるような実践を心がけたいと思っています。通じる場面がたくさんありました。参考にさせていただきたいと思いました。また、地域に住む保護者の方々への投げかけも重要だと感じました。以前、日本で子育てをした外国につながる方々のインタビューを聞いたことがありますが、教育に関する興味関心は、保護者によって様々であり、関心が薄い場合は、子どもにとっても、自分の将来が描けないという問題につながる点をインタビューでは指摘していました。困っている方々とは、何とかつながることはできるかもしれませんが、困ったと感じない保護者の方には、どのように日本での教育についてお伝えしていけばいいのだろうか、あらためて難しさを感じました。教育者（支援者）と子どもと保護者がつながるのは、様々な課題があるため、一つひとつできることから始めていきたいと思いました。  
学校の先生と連携し、直接、学校の支援活動に参加する方法もあると思います。それ以外にも、私にできることがあるのではないかと考えています。私のような立場の人間は、子どもの学習や、生活をよりよく送るために、どうすればいいのか、何ができるのか。自分ができることから実行していきたいと思いました。  
本日は、大変参考になるお時間、本当にありがとうございました。

「親に関心を持ってもらう」というお話、つくづく大切だと思いました。

自治体を介して取り出し授業をしていると、時間数に上限があるのと、担任の先生も他の子と足並みを揃えたいからか、週に1回だけの支援で、長く続けてもらった方が良くとおっしゃいます。そして学習言語も身につかないまま任期満了または、親の都合で転出、というパターンが多く、いつもモヤッとしています。限られた時間を少しでも濃い時間にしたいのですが、(能力があるにもかかわらず)担任の先生が問題点に気づいてなかったり友達から浮いてしまったり、親の目が向いていなくて環境が整ってなかったり(文具が足りない、あくびをしている、宿題をしないなど)します。支援員が直接親に会うことは皆無ですので何とかしたいと思いつながら、担任や副校長に報告するのが関の山です。

せめて、担任や友達との橋渡しをし、本人がクラスで感じているであろうストレスを、私と話すことで発散させてあげたいと思って続けています。

・明日にでもすぐに使える指導方法が、とてもわかりやすく、またありがたかった。

・時間が短かった。

・子どもの指導は、たくさんの人々の協力と理解が必要であることを再認識した。

・指導している時はひとりで頑張っている感が強いが、多くの人が外国につながる子どもたちに関わり、またいろいろな悩みを抱えているということに、自分ひとりではないと少し安心した。

・子どもへの日本語指導は単なる日本語指導ではなく、その奥が深いこと、だからこそやりがいのあることをあらためて感じた。

国語の指導における少し早めに進める「先行学習」、折り紙や絵描き歌の楽しさ、意図せず出来上がる「うそ日記」の面白さ、子どもに関わるあらゆる大人の横の連携は日常的な”おしゃべり”にキーがあること、など気づきがたくさんありました。また、グループセッションでお話をした他の参加者の方々の社会活動への取り組みの姿勢にも学びがありました。

細野先生、昨日はありがとうございました。

細野先生の愛情と知識に裏打ちされて具体的で実践的な事例をたくさん紹介していただき、頭と心に残る時間となりました。

小学生で来日した子供たちは、日本語を通して礼儀や躰を含めた日本文化だけでなく、心まで育て、かけがえのない時間を過ごしているんだということを再認識した時間でもありました。

来日間もない高校生が増えている高校も、国際科が視野に入ってきてますが、充実した小学校の国際化に一步でも近づくためには、先ずは、教員一人一人の「子供を繋ぐ・人を繋ぐ」という意識付けができた上で授業ができれば理想的だなと感じました。

少々時間がかかると思われますが、その隙間を埋めるべく、本日の研修で学んだことを、目の前の生徒達に活かしていきたいと思います。

嶋田先生、このような機会を作っていただきありがとうございました。

嶋田先生のお人柄に触れて、こちらまで温かくなりました。

またの機会を楽しみにしております。

細野先生、貴重なお話をありがとうございました。嶋田先生、このような機会を与えていただきありがとうございました。

まず小学校の全校児童のうち半数以上が外国籍等の児童であることに驚きました。私の住む地域では聞いたことのない人数でした。住む場所によって子供たちの教育環境はかなり違うのだと現実を知りました。

子供たちに関わる先生方の細かいご配慮、工夫されていること、最後にまとめとしてうかがったことなどは、外国人の子どもにも日本人の子どもたちにも大切なことだと感じました。

夏休みの宿題のお話では、先生や両親、周囲の大人が関心を向けることで子どもは大きく成長するのだと再認識いたしました。

以前、日本語がわからないだけで特別学級に入れられてしまうというお話を聞いたことがあり、憤慨したと同時に心を痛めておりました。今回、細野先生のお話をうかがい、子どもたちが笑顔で集まる国際教室のような場所を増やすことの必要性を強く感じました。ありがとうございました。

大変有意義な時間を共有させていただきました。ありがとうございました。年少者への日本語指導は「課目指導をしてはいけない」という制約もあります。ですが、貴重な日本語指導の時間を単なる日常会話のみで終わらせるのは（初歩の初歩は別）あまりに無駄です。教科につながる日本語ができれば授業の幅も広がり、教員の資格がなくても少しだけ教科補習をすることが可能です。私もJSLのトレーニングや講習を受けましたので全ての指導にとりいれているのですが、他の先生方につなげられないのがネックです。また、今回の講座で細野先生がおっしゃる「不平等感を与えない授業構成」というのはとても共鳴できるのですが、対象児童生徒の心の変化になかなか気づけず、可視化できる頃には少々手遅れという事も起りやすいです。先生のお言葉を常に念頭に置きながら「人間としての成長」の手助けが出来るようになればと思います。本当にありがとうございました。

改めて外国をルーツに持つ子供たちの学習（日本語）支援の必要性を感じました。以前から先生（指導者）という立場ではあるが、同じ目線で子供達と向き合う姿勢は関係性が深まり良いと実感していました。特別な支援者がいない場合、普通学級での授業には参加させてもらえず特別支援学級で勉強する子供もいると聞いたことがあります。何か違う支援の在り方だと思い辛い気持ちになったことを覚えています。

ありがとうございます。いくつも実践的な学びがありました。①JSLのこどもは友達とふつうも話せていても、日常語彙の範囲ですら母語話者とは差があること、特に苦手な日本語である学校で使わない日常語の大切さ。②言葉はやり取りによって覚えるもの。親の助けが必要だし、子供同士をつなげて遊ぶことが大事。③偶然で勝負が決まるようなゲームで全員参加できるようにしていること。④遊びの大切さ。などなどです。またブレイクアウトルームでのみなさんとの意見交換もとても勉強になりました。現在行っている小4のJSL児童の日本語支援に活かしたいと思います。改めて細野先生、嶋田さんに感謝いたします。

ありがとうございました。

細野先生のような取り組み実践例に圧倒されました。どれもわくわく、自分も参加したいとおもいました。様々なヒントもさることながら、一番感銘を受けたのは、子供たちが一人の人として成長していけるように関わられている点でした。社会に出たら不平等なことばかり……。せめて学校は平等で安心できる場であって欲しい、日本語学校でもずっとそう思ってきましたが、小学校では特別心配りがたいせつだとおもいました。みんなが、自分の得意を発揮できる場を提供されていて、先生の教え子さんたちは幸運だと思います。だれと出会うか、本当に大事なことだと思いました。自分の文化に誇りを持てる、自己肯定感をもてる。漢字を覚えるのも確かに大事だとは思いますが、それ以上に大切なことを子どもたちが体験しているのだと、お話を聞いていて教室が目に浮かぶようでした。人として成長して欲しいというお気持ちが感じられ、ひとりひとりを一人の人として尊重されているご様子にも感銘を受けました。

国際学級が他のクラスのハブのようになって、「国際交流・文化交流」がごく自然に行われているなんて、素晴らしいとおもいます。

同時に、日本語教師は、多文化共生について、もしかすると一番理解しやすい立場にいるのではないかと感じました。多文化に関わるプロとして日本語教師が果たせる役割についても考えさせられました。参加して本当に良かったです。

ありがとうございました。

具体的で本質的なお話をたくさんお聞きでき、とても刺激を受けると同時に、私ももっと頑張ろうという気持ちになりました。子どもは一人一人背景が大きく異なり、週1時間の指導で何が出来るのだろうと、悩んでいました。今後はできることを精一杯、周りとの連携も大切にしながら、進めて行こうと思います。ありがとうございました。

子どもの支援はこれからやりたいことの1つで、細野さんの様々な実践を知り、具体的なイメージすることができただけでなく、その実践の根底になる思い、考え方に深く共感できて、自分の背中を押してもらっているような気持ちになりました。

日本語学校の現場では、「お互いを認めあう環境づくり、お互いを助け合うことばかけ、お互いを高め合う心を育てる」ことに重きをおいた遊び・アクティビティを実践していると、それよりも、まず、将来のためには、個人の文法やことばの定着、JLPTの点数を上げることが先ではないかと指摘されることが多々あります。

しかし、細野さんの実践では、知識や学習習慣の定着と遊びを通した学び、そのどちらも大切にされていて、包括的に子どもたちをサポートしていらっしゃることを知りました。とても勇気づけられました。私も「何度も成功や失敗を繰り返しながら工夫を重ねると、自分にとって最高のものが実現できる」と信じて、がんばっていきたいと思います。

細野さん、嶋田先生、本当にありがとうございました。

細野先生の体験にもとづいた貴重なお話しをお聞きできて、感動しています。子どもの支援の場では「出会いの場で子ども同士をつなげ、お互いを知って仲良くなり、伝え合って最後は助け合う」関係を作り上げることが最後の目標とおっしゃったことが印象に残っています。ボランティアサークルで支援しているときには、1対1が多いため、子ども同士のつながりまで考えられていなかったと反省しました。今後、教室での学習支援をする場合には、つながりを大切に考えていこうと思いました。

具体的なことでは、「折り紙ガイド」を作られた話、自分の中にある鬼を退治する豆まきの話など、それぞれの活動の考え方は留学生に対するときも同じだと感じました。今回の研修で得た考え方を常に思い出しながら、どうしたらいいか考え、工夫していこうと思います。

本当にありがとうございました。

先生の実践や参加された調査のお話を詳しく伺うことができ、大変勉強になりました。“学校で使う日本語の習得は早くても、家で使うような日本語が難しいこと”“日常会話が母語話者のように自然な子どもでも、もしかしたらわからない部分があるかもしれないこと”等、念頭に置いておかなければならないことに改めて気付かされました。また、言葉を増やすためには保護者の協力が必要であることの大切さを教えていただき、これまで「保護者も忙しいし…」とうやむやにしていたことを反省しました。母語保持や思考力育成の点からも、今後は保護者の方々としっかり相談していきたいです。実践のお話からも、自然に子どもたちの自主性や公共性を高める方法について学ばせていただいたので、これから生徒や教室に合わせて工夫していきたいと思います。貴重なお話を惜しみなく共有していただき、本当にありがとうございました。

細野先生の実践に基づいたお話は、本当に学びになりました。会話力のある児童でも、生活語彙の不足があるというお話は、私にとっての盲点でした。学習言語の難しさにばかり気がしていました。日本の子どものように、日本語母語話者の家族で育てていれば、小さい時から自然に耳にしている生活言語ですが、外国ルーツの子には、どんなに会話上手な子でも知らない語彙が多いということを感じさせていただきました。また、指導方法では、実際の様子を写真等で拝見でき、非常に参考になりました。ゲーム感覚で夢中にさせ、受け身ではなく、時には児童が先生になって自己肯定感が高められる指導をされていることは素晴らしいと思いました。そして、視覚・聴覚・体を動かすことを、フル活動させる技（折り紙等での指導）はすてきだなと思いました。私は日本の学校に通う外国ルーツの児童の指導は未経験ですが、機会があればこの学びを活かせたらと思っています。本のご紹介も有難かったです。

横浜市の積極的な取り組みの中で細野先生がいろいろな工夫をされ、生徒たちが自分の得意とすることを発信できるようにされている授業が大切だと感じました。生徒たちの自尊感情をどのように持たせるか育てていくかが教師に問われている改めて思いました。

積極的な取り組みを行っている地方自治体がある一方教師個人個人に任されている現状が多いと思います。先進事例を学ぶだけではなく、個人が手探り状況の中で努力していることをシェアし合ってつながっていくことも必要だと感じました。

いつも実りあるワークショップをご提供いただきまして嶋田先生に感謝申し上げます。そして今回、豊かな実践にあふれたプレゼンテーションを惜しみなくシェアしてくださいました細野先生に感謝申し上げます。半数の生徒が外国籍であるという学習環境に身を置ける外国籍の子供たちはなんと幸せなことだろうと思いました。ほとんどの学習現場の実態は、少数派の外国籍の生徒たちが肩身の狭い、どうしても片手間の感のある学習環境に追いやられているのではないのでしょうか。最も感銘を受けたのは、数々の活動が単なる思いつきによるものでなく、しっかりと理念に裏打ちされており、きちんとした学習計画のもとに構成されていることです。豊かな実践は十分に念入りな準備とともにあることを実感しました。アクティブ・ラーニングを研究していますが、これまでの実践の中で最も困難を極めているのが疲労（つまり時間が足りない）との闘いだからです。アメリカ時代、さまざまなアクティブ・ラーニングをしたことが思い出され、またしてみようという元気をいただきました。色鬼や鬼ごっこ、だるまさんが転んだ、などの活動、かるた、花札、おしくらまんじゅうなどの日本の遊び、俳句づくり、習字、日本料理（おにぎりやみそ汁づくり）などいろいろなことをしました。遊びの効用について論文を途中まで書きかけて中断していたのですが、完成させようと思ひきつかけもいただきました。さっそく先週の日曜日に県在住の外国人と地元の高校生のコラボしたクラスを展開したのですが、5,6年前にある大学で行った俳句とストーリー作りの活動を再現してみたところ大好評でした。発表の中で「親をつなぐ」「こどもをつなぐ」というコンセプトが提示されていましたが、そのアプローチが非常に大切に功を奏した教育実践になっていらっやと思ひました。ありがとうございました。

親との面談や夏休みの宿題など、具体的な事例をたくさん見せて頂き、参考になりました。親とつながること、子ども同士をつなげること、大切なことだと感じました。また、学年担当の支援の先生がいて、通年で支援がされていることも大変大切なことだと感じました。今後、年少者の日本語教育に携わる時には、忘れずにいたいと思います。現場の様子、お考えをたくさん拝見させていただきましてありがとうございました。

アクラス寺子屋に参加させていただきありがとうございました。細野先生の長年のご研究と実践による知見の数々教えていただき、大変感激いたしました。たくさん実践を見せていただいた中で、印象に残った3つのことについて感想を述べさせていただきます。

まず、印象に残った1つ目は「親とのつながりを強化し、語彙力を伸ばす様々な試みをされたこと」です。JSLの子どもとモノリンガルお子さんの語彙力の差に着目され、JSLの子供たちが日常生活で自然習得する語彙を家庭で楽しく学べる仕組みを作られたのはすばらしいと感じました。日本語ができない保護者の方でも協力しやすいように宿題を教えるのではなく見守ることでいいと伝え、一緒に絵本を読んだり、夏休みに『こともことば絵辞典』音読する宿題を出すなどされました。何よりも「親が子供のことに関心を寄せることが大切だ」とおっしゃっていた言葉が心に深く響きました。

次に印象に残ったのは、遊びを通して子供同士がつながる場を作られたことです。国際教室に児童館のような楽しい遊びの空間を作り、通常クラスのお子さんが行き来できる環境を作られたのには目を見張りました。折り紙、すごろく、ビンゴやパズル、かるたや遊び歌に至るまで、わくわくする遊びでいっぱいの国際教室はJSLの子供たちが胸を張って通える自慢の学級だったことでしょう。また、遊びを通して子供たちが自然につながる仕組みを手作りで一つ一つ築いてこられた細野先生のご尽力に深い愛情を感じました。

最後に学び合いにより子供同士をつなげる実践にも感動を覚えました。コロナの影響で子供同士が自由に行き来する機会が失われ、子供同士の関係が希薄になりつつある中、細野先生は、授業の学びの中で子供同士をつなげる様々な取り組みをされていました。例えば、他己紹介をして友達を知る機会を作ることもその一つです。また、友達の考えをよく聞いて、自分の考えと比べる発表の授業もされています。そして、「こまを楽しむ」という国語の単元では、子供たちが手作りゴマの作り方を教え合い、自分でつくったこまで友達と対戦に遊びを楽しめる場を作られました。しかも、その試みを成功させる細やかな先生の気遣いがまた素晴らしいのです。もし、子供たちが自分で折り紙を持ってくると、自慢大会に繋がってしまうので（経済的な優劣）、折り紙は先生が提供され、一定のルールのもとに遊びの場が運営されていました。遊びを通じて友達と切磋琢磨することで知性を磨き、一定のルールを守ることで社会性も自然に身に付くのだと感じました。

細野先生の実践を振り返ってみると、家庭、言語、遊び、仲間、学習、というように広範囲の場づくりをされたことがわかります。今後、外国につながる子供の支援に関わる機会が持てましたら、細野先生の実践を思い出し、精一杯自分にできる実践を行っていきたく感じました。

海外ルーツの小学生への取り組み、多くの事例や教材の紹介があり、よくわかりました。子どもたちが、家族の事情で海外で暮らすことになったら、不安があるのは当たり前だと思いますので、遊びの中にも工夫をして、コミュニケーションスキルを養ったり、日本の学校生活のルールを覚えたりできるのは、大切なことだと思います。

そうした子どもたちへの接し方の以前に、保護者とも連携できる仕組みは、忘れてはいけないことだと感じました。地域の日本語教室にも親子で参加できたり、海外ルーツの子どもの教室に、日本人の子どもや保護者や、他の教員にも関心を持ってもらえるような開けた空間であれば、疎外された気持ちにならないでしょう。県のレベルまでは多文化共生を推進する仕組みができていますが、市ではまだまだ海外ルーツの子どもの居場所がない状況です。私の関わる海外ルーツの学習支援でも、既成の価値観にとらわれず、子どもたちを尊重して、取り組んでいけたらとあらためて思いました。

細野先生のなさっている活動が全国的にシェアされて「支援」、ではなく「教育」としてきちんとカリキュラムの中に組み込まれるべきだと強く感じました。貴重な報告をありがとうございました。こちらの日本語教育の中でお教えいただいた色々な「つなげる」方法を活かせると思います。